

ロラン・バルトと現代～テキストの快樂が意味するもの～ (TV)

担当講師：〔渡邊 守章(放送大学名誉教授・演出家)〕
〔小林 康夫(東京大学大学院教授)〕
〔石田 英敬(東京大学大学院教授)〕

1960年代に「構造主義・四天王」の一人とされたロラン・バルトは、死後22年を経て、その評価はいよいよ高くなっている。パリ・ポンピドゥー・センターにおける『ロラン・バルト展』と国際シンポジウム、ならびに『バルト・デッサン展』とバルト国際シンポジウムを素材に、ロラン・バルト評価の現在を問う。